

ISO 14001 認証取得報告

会社名 共和物産株式会社・共和運輸株式会社
所在地 渋谷区松濤1-3-2
資本金 2,000万円 従業員数 400名
事業内容 梱包請負業・運輸業を中心とした総合物流サービスの提供

1. 当社の概要について

当社は昭和23年12月10日の創業です。お取引様各位や先輩諸氏のご指導を賜りながら、お陰様で昨年満60周年を迎えることができました。

業務内容としましては、鉄鋼・アルミニウム・百貨店・住宅建材を主要なお取引先様とし、梱包・包装・加工・仕分・出荷・輸配送等の各サービスを提供しております。

『まごころ』を込めて、より速く、より美しく、商品の一つ一つ丁寧に包装するよう心掛けております。私たちは60年以上にわたって蓄積した確かなノウハウと、企業理念である「チャレンジ精神」に基づく創造力で多様化するニーズに応え、高品質なサービスを提供し続けます。

2. 取得の動機

『もったいない』平成19年の年頭の辞で社長より全社員に向けられたメッセージです。作業工程や時間、資源など職場における無駄の排除と効率化を目指していきました。しかし昨年のリーマンショックによる世界規模の不況、石油高騰等により企業を取り巻く経営環境は悪化します。今後当社の永続的発展を考えた時に、これまで蓄積した信頼やノウハウのみで企業経営を推進していく限界と危機感を強く感じたこと、社会貢献の視点からも現在当社が持っている経営資源を有効的に効率的に活用し、更なる信頼性の向上・経営基盤の強化を図るためには「経営マネジメントシステム」の構築が必須であるという社内意識が高まり、ISO14001を取得しようという提案が社員より出されました。

<取得の目的>

まず、経営マネジメントシステムをしっかりと確立することです。人が変わっても企業が存続する限りこのシステムは活き続けます。明確な経営方針に従い、一つの目的目標に向かって活動し、確実に達成する必要があるため、組織の基軸がぶれません。

今回導入するに至った大きな狙いがここにあります。

昨今問われている企業の社会的責任や企業倫理の向上を目指し、全社員の意識を醸成していくことです。各々が今当社のおかれている立場を理解して、愚直に業務を推進

していく必要があります。

管理監督者を中心とした人材の育成です。特に、今後の経営の中枢を担う22名を選抜し、内部監査員の資格を取得させ、自分自身の会社を客観的な視点で運営する技術も身につかせました。

更なる技術向上を目指して改善意識を高めるということです。

<期待する効果>

企業力・組織力が間違いなく強化されますから、競争力をつけ他社との差別化を図り、当社の持っているノウハウや技術に更に磨きをかけて自信をつけていきます。

組織全体の業務の標準化が可能となり、目標管理を徹底し、かつ、達成しなければならず、人材育成を通じて、組織全体の基礎力が格段に向上します。

経営マネジメントシステム導入活動に対する従業員の免疫力がなく、様々な抵抗や反発が予想される中、何としてもやらなければならないという「勢い」と「使命感」だけで活動をスタートしました。

3. 取得の流れ

時期	主な活動内容
1ヶ月	EMSの目的・規格の理解
2・3ヶ月	環境側面抽出・評価、環境方針の決定、環境目標実施計画の策定
4ヶ月	従業員教育実施、内部監査員養成
5ヶ月	内部監査実施、マネジメントレビュー
6ヶ月	第一段階審査受審、審査指摘事項の是正や改善、緊急事態訓練実施
7ヶ月	内部監査実施、マネジメントレビュー
8ヶ月	第二段階審査受審、審査指摘事項の是正や改善
9ヶ月	是正処置報告書の提出、判定会議、ISO14001審査登録(2009年9月17日)

スケジュール

年末にキックオフを行いました。繁忙期に入ったため実質的な活動は年明けの1月から実施しました。コンサルタントを交えた研修会は月2回実施し、その他メールのやり取りで活動を進めました。

運営体制

社長より任命された環境管理責任者を中心に、各拠点の若手社員を補佐役として選抜し、ISO推進事務局の機能を設置しました。各拠点での活動の推進・教育はISO事務局員に実施してもらい、本社内に設置したISO推進委員会で目標の策定や情報の共有を行いました。

4. 取得の過程において配慮した点

環境 ISO14001 の認証取得を当面の目標とし、教育・内部監査を通じて全従業員に認証取得にかける会社の強い意気込みを示し、活動の早期定着化を図りました。その結果、環境に配慮した改善提案やゴミ分別処理の徹底など効果が現れ始めております。

5. 今後の課題

認証取得活動を通じて発生した、今後の活動課題について触れたいと思います。

活動の定着化、形骸化の抑制

一点目が月次活動を定着化し、形骸化させないようにすることです。やらされている感から早く脱却し、審査のためだけの活動にしないこと。そして、事業目標との整合性についても今後は検討していく必要があるかと思っております。

効果的な内部監査の実施

二点目は、効果的な内部監査を実施することです。そのためには、内部監査の手法や監査ポイントの明確化、監査員の力量向上、監査後に記入する是正処置・予防処置内容のレベルアップが必要になります。

文書類の簡素化

三点目は、文書類の簡素化です。ISOは記録の山になります。まだ運用を開始して半年弱ですが、既に保管棚が一段埋まっております。今後はセキュリティの問題がありますが電子化を視野に入れ、また記入の負荷を軽減するためフリー記入欄を極力減らしチェックリスト化を考えていきたいと思っております。

これらの課題を克服していくことが、効果的なマネジメントシステムの運用に繋がると思っております。

6. 最後に

認証取得にあたってはたくさんの労力と時間を費やします。今の仕事で手一杯で時間が足りない。人数が少ないからできるわけがない。我々も途中で活動が行き詰まり本当に認証取得できるのだろうか、と不安になったこともあります。

しかし、ご安心下さい。東京法人会連合会様と渋谷法人会様、そしてコンサルタント会社の株式会社環境経営コンサルティング研究所様の全面的なサポートにより、目標とした期間内に認証取得することができました。感謝申し上げます。

企業は営利集団です。そして我々従業員が安定した生活を確保するために、永久的に存続させる必要があります。自らの手で会社を変え、未来を切り拓こう！その思いが今回の活動の糧となりました。

当社は人間に例えれば還暦を迎え、第二の人生をスタートしたところです。認証取得により、新たな一步を踏み出しました。ISO活動もスタートしたばかり、認証取得がゴールではありません。今後は地域社会との調和を保ちながら、ルールを守り、愚直に業務に精励して参ります。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

平成21年11月12日

共和物産株式会社
共和運輸株式会社
松田 浩太郎